

経営比較分析表（令和元年度決算）

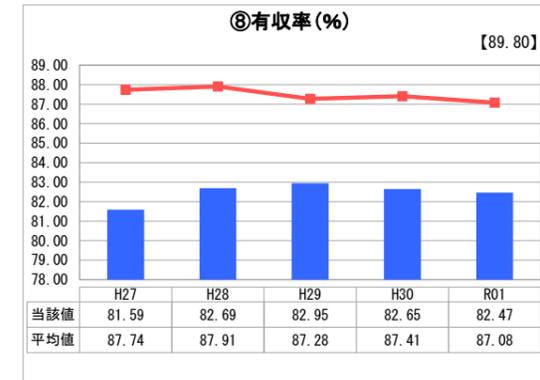
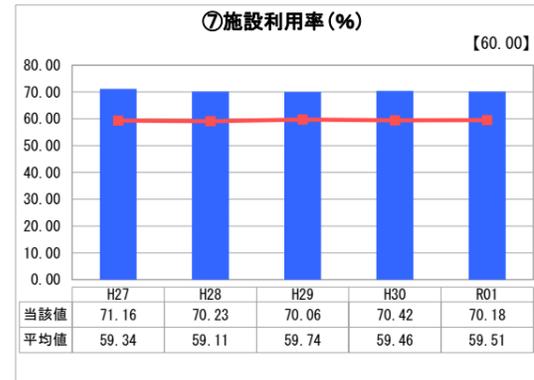
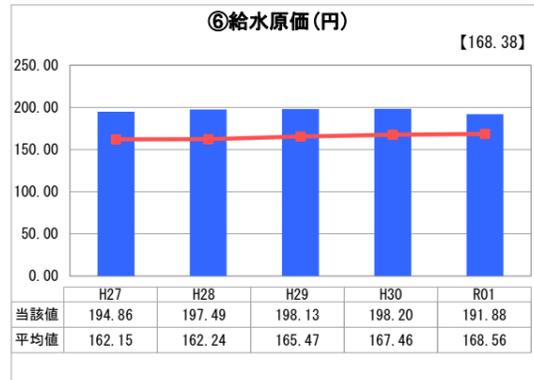
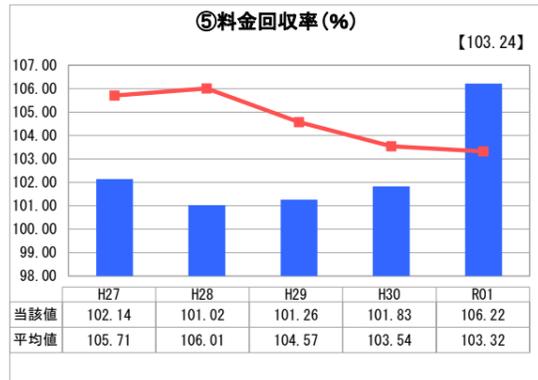
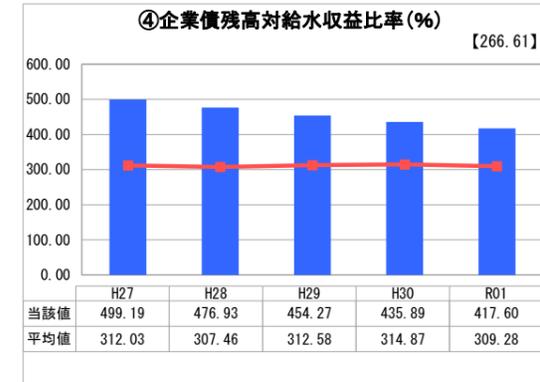
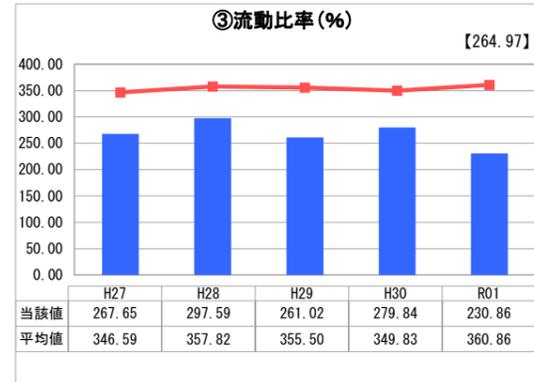
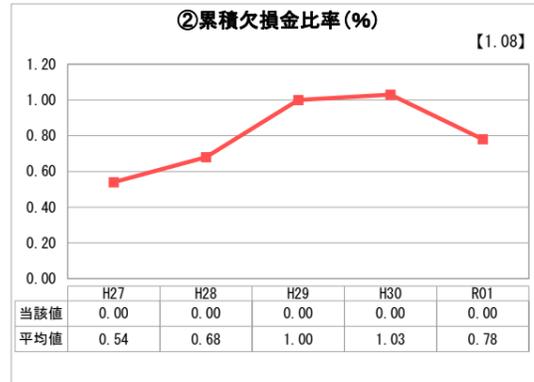
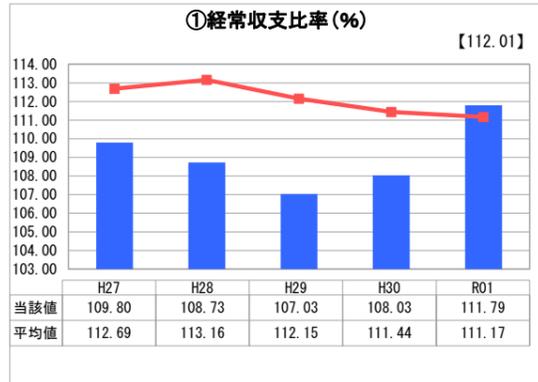
栃木県 大田原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	60.57	94.62	3,740	

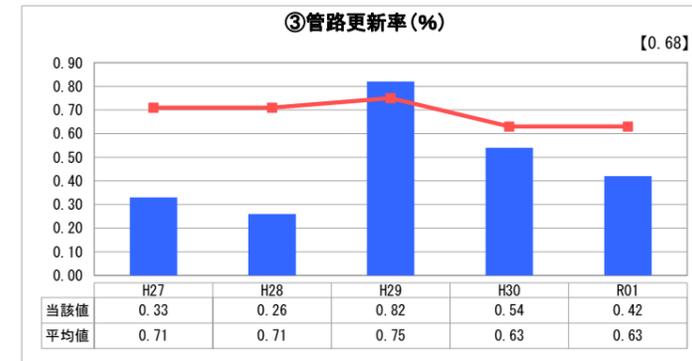
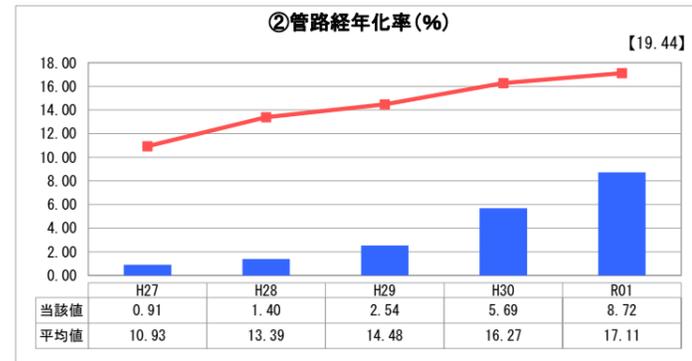
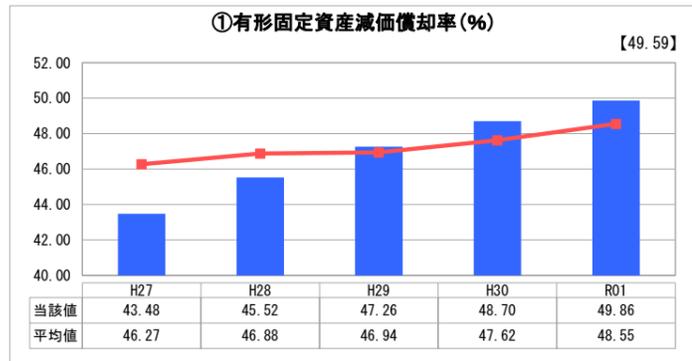
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
70,896	354.36	200.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
66,883	291.26	229.63

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収益は前年同様でありましたが、経常費用が前年よりも減少したため、類似団体と同水準となりました。これを維持するには引き続き経常費用の抑制が必要です。
 ② 累積欠損金はありません。
 ③ 流動比率は、類似団体を下回るものの、常に100%以上を維持しております。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体を上回るものの、着実に減少しているが、引き続き類似団体に近づけるよう努力する必要があります。
 ⑤ 料金回収率は100%を超えており、令和元年度は給水原価の低下が要因となり、料金回収率が大幅に上昇しました。
 ⑥ 給水原価は経常費用の抑制により、安価となりましたが、以前として類似団体を上回っております。引き続き経常費用の抑制に努める必要があります。
 ⑦ 施設利用率は類似団体を上回っており、効率的な運用ができています。
 ⑧ 有収率は、依然として類似団体を下回っているため、今後も漏水調査等の実施により、改善する必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体を上回る上昇となっており、施設等の老朽化が着実に進んでいます。
 ② 管路経年化率も類似団体平均値を下回るものの、年々上昇しており、管路も老朽化が進んでいます。
 ③ 管路更新率は、0.42%と類似団体平均値を下回っておりますが、今後も将来を見据えて更新を着実に実施していく必要があります。

全体総括

・経営面に関する指標については、類似団体と比較し低い数値となっておりますが、累積欠損金もなく、収支も安定しているため、経営の健全性は確保しているといえます。しかしながら、将来の給水人口減による有収水量の減少を見据え、効率的な維持管理、計画的な企業債借入による借入残高減少など、将来を見据えた経営が必要です。
 ・施設、管路等老朽化は更新率を上回るペースで、それらを更新していくには多額の更新費用を要するため、財政収支との整合性を図りながら、計画的な更新と費用の平準化に取り組む必要があります。